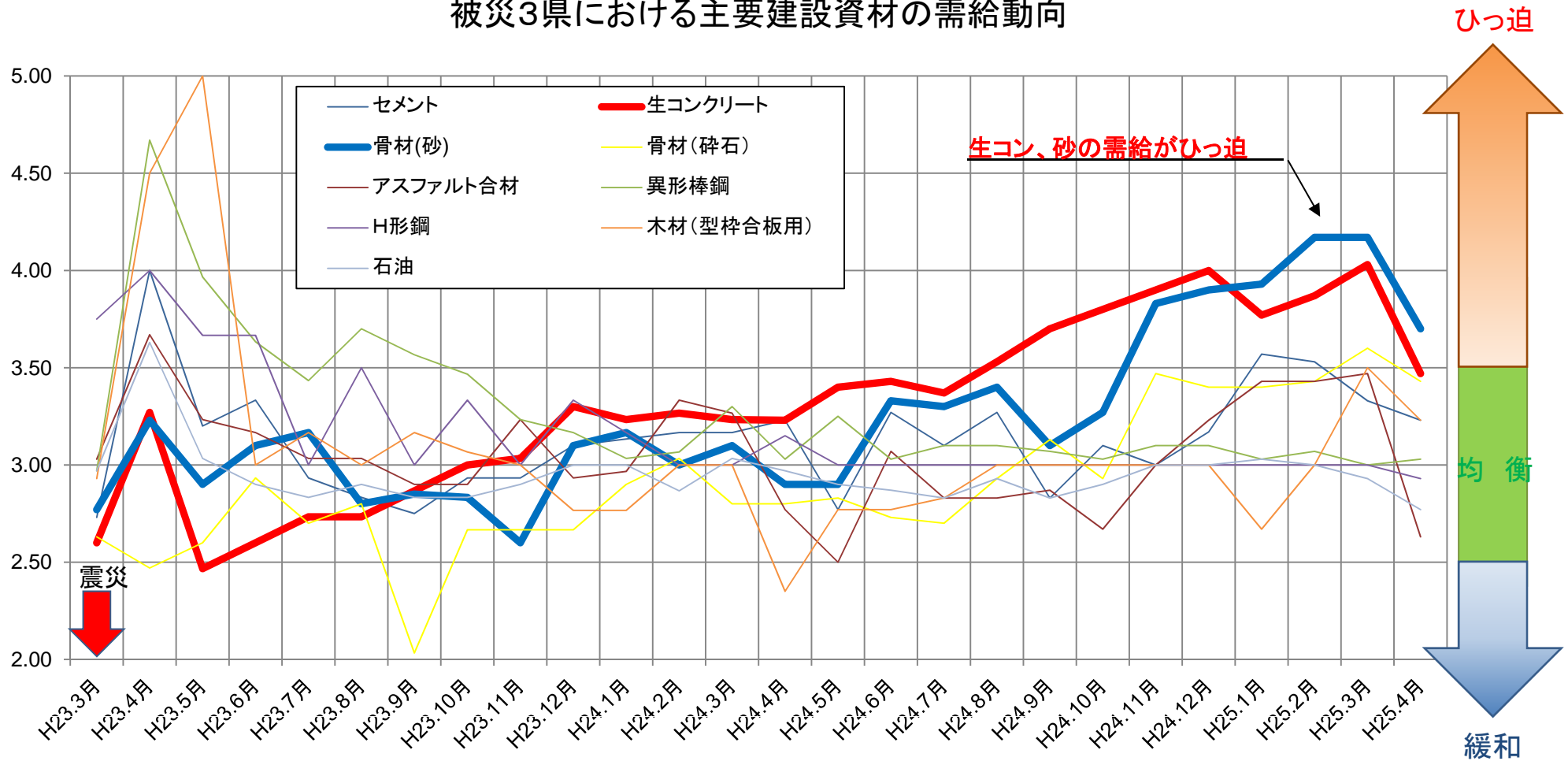


# 被災地における建設資材の需給状況

○被災3県において、生コンクリートと骨材(砂)の需給がひっ迫

被災3県における主要建設資材の需給動向



※数字は、モニターから得た回答「緩和」「やや緩和」「均衡」「ややひっ迫」「ひっ迫」を1～5点とし、全モニターの回答を平均したもの  
 出典：主要建設資材需給・価格動向調査(国土交通省)

建設資材の**需要・供給の見通し**を、公共工事発注機関、資材団体、建設業団体等で情報共有し、関係者に必要な対策の取組みを要請

## 建設資材対策東北地方連絡会・分会の開催状況

	東北地方 ブロック会議	岩手県分会	宮城県分会	福島県分会
平成23年度	4回		1回	1回
平成24年度	5回	7回(地区別)	6回	1回
平成25年度	4/24開催	4回(地区別)	<b>5/17開催</b>	

※復興加速化会議等を含む

### 建設資材対策連絡会を受けて講じている主な取組み

【供給力の向上】 ○生コンプラントの増設  
○港湾工事等におけるミキサ船等の導入  
○生コン原材料等の地域外からの調達 等

【需要の抑制】 ○コンクリートブロック等への転換 等

課題

生コン不足の原因 → 生コン原材料(砂)と生産設備(プラント)の不足

これまでの対応

○コンクリート二次製品や代替資材への**転換**

○生コン**プラント**不足への対応

・生コンプラントの増設(生コン工業組合等)

6基設置(見通し含む)

⇒ 供給可能量が27,000m<sup>3</sup>/月拡大

・大量に生コンを使用する**港湾・漁港工事**における**専用プラント**の設置

仮設プラント2基、ミキサ船**8基**稼働(見通し

含む) ⇒ 供給可能量が10,000m<sup>3</sup>/月拡大

○**原材料(砂)**不足への対応

・海運等による**地域外からの調達**

65,000m<sup>3</sup>/月(生コン換算:116,000m<sup>3</sup>/月※)

※H24年度生コン月平均出荷量の47%に相当



コンクリート二次製品の設置状況



ミキサ船

今後も不足が見込まれるため、**更なる対策が必要**

今後の対応の方向

## 原材料

○海運により調達する砂の**荷揚げ施設、ストックヤードの拡大**

## 生産設備

○**民間プラントの更なる誘致**

○公共発注者が、公共工事向け**専用プラントを確保するためのスキーム**(不足する原材料は域外からの調達を想定)を設定し、その実現に向けて関係者との調整を進める。

【具体事例】

**宮古・釜石地区**において、三陸沿岸道路工事のための**公共プラントを国が新設**

**気仙沼・石巻地区**の県事業において、**公共プラント新設するスキーム**を検討し、早急に結論を得る

【背景】

○震災後約2年間に、**民間によるプラント設置は6基のみ**。

今後の建設や、域外からの原材料調達に向けた動きも限定的。

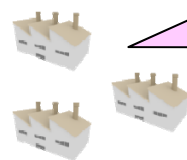
○このままでは、生コンの供給が一層遅延し、**復旧・復興に大きく影響する恐れ**

事業の遅延防止の観点から、**公共工事に供給する生コン※の一部を発注者自らの対策で確保**せざるを得ない

※既存プラントの供給能力を超過する部分を想定

現状

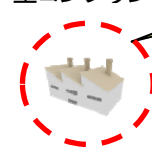
既存プラント



生コンが不足し、公共工事、民間工事とも遅延

今後

公共工事向け生コンプラント



公共工事の円滑な施工

需給ひっ迫や出荷遅延が緩和



既存プラント